

同窓会だより

●発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1

ホームページ <http://www.dosokai.ne.jp/kenfuna/>

E-mail funaobog@gmail.com

●印刷 (株)サラト

姫路市北条宮の町172番地

TEL 079-284-1380

題字／小原天簫先生



母校はいま

恐れ多くも「母校の教壇に立つ」ことが叶ったのが5年前の平成23年4月。その数週間前に起こった東日本大震災の影響で、社会全体がまだ落ち着かない中で、船高教壇デビューでした。着任していきなり1学年の担任をもつこととなり、普通であれば右も左もわからない学校で新入生にガイダンスを行わなければならない状況。しかしそこは卒業生としての強み、学習方法や部活動はもちろん、校舎の配置や校歌についても問題なく教えることができました。

私は平成5年の3月に船高を卒業しました。23年前などまだまだ最近だと諸先輩方からお叱りを受けそうですが、その当時と今を比べても、変わったもの、変わらないものがあります。

私の在学当時には、すでに南館のさらに南にある新館も、屋根付きプールもありました。当時は1学年10クラスの現在とは教室配置が若干異なるものの、校舎の配置は卒業時となら変わりがありません。それだけ古い校舎です。最近では本館や南館で雨漏りが起こることもしばしば。校舎の修繕は伝統校の課題の一つです。果たして新館はいつまで新館と呼ばれ続けるのでしょうか。

行事については、20余年前とそれほど変わっていません。尾瀬への林間学校や2年次の武道大会はなくなりましたが、その他は概ね今でも行われています。6月のたちな祭では2日間、6,300名を超える来場者を迎えて大盛況でした。他にも球技大会、陸上競技大会、ほととぎす祭、合唱の部など、船高生がどの行事にも積極的に取り組むのは、昔と変わっていません。そんな頑張りを応援する立場にありながらも、球技大会では昔を思い出して黙って見ていられず、ソフトボールにちゃっかり参加させてもらいました。

11月には修学旅行があり、今年も宿泊は京都の御殿荘です。当時、御殿荘で食べたすき焼きの味は、今でも記憶に残っています。今回の引率で、御殿荘のすき焼きをいただけるか、今から楽しみです。なお、生徒へのアンケート結果などから検討した結果、来年の修学旅行は船高初の沖繩になるそうです。

部活動が盛んなところも変わっていません。全国総体や総文祭、関東大会へ出場といった結果を残している部はもちろんのこ

と、県大会や地区大会、近くの発表の機会へ向けて熱心に活動している部ばかりです。中には活動後に部室等でたわいもないおしゃべりを楽しんでいる様子も見られますが、それはそれで高校時代には大切な時間なのかもしれない。同じ目標や同じ趣味を持つ者同士が熱く語らえるのも船高の伝統でしょう。

少し違った視点で見ると、当時と変わらないものに土曜授業があります。思い起こせば私がちょうど高校3年生だった9月から第2土曜日が休みとなり、週休2日制の恩恵をあまり受けずに卒業しました。週休2日制が定着した現在、公立学校では珍しく、船高では月に2回程度の土曜授業を実施しています。中学生や地域の方々には授業を公開するとともに、進学重点校として授業時数を確保するメリットがあります。

そして今も変わらないものは、やはり船高生の気質でしょうか。授業中に開く紙の辞書が電子辞書へ、休み時間に用いるコミュニケーションツールがスマートフォンへと、時代とともに変わったものももちろんあります。しかし、授業や部活、行事に取り組むその態度、人一倍プライドが高く、何にでも頑張ってしまうその姿勢、つまりは船高生一人一人の人間性は、今も昔も変わらないように思います。そしてこれからの船高生にも、先輩たちの良いところは、これからの後輩たちへ引き継いでもらいたいと思います。そんな、頑張っている現役の船高生たちを、とても慈愛とは呼べない瞳で見つめている日々です。

平成23年4月着任 平成5年卒
千葉県立船橋高等学校 教諭 篠崎健太郎

同窓生 & 在校生 (平成28年10月1日現在)

同窓会会員総数 33,365人
名簿登録数 33,028人
内全日制26,877人、定時制5,097人、恩師1,054人
住所不明者数 11,019人

在校生

全日制 男642人 女456人 計1,098人
定時制 男149人 女 91人 計 240人
教職員 全日制84人 定時制31人 計115人
内同窓生14人



会長挨拶

同窓会会長
子安啓司 (昭和43年卒)

平成26年に同窓会長に就任し、はや3年目となります。4年後2020年には船橋100周年を迎えることとなります。本年も押し詰まってきた感じが、振り返るに偽造問題続発には唖然とさせられます。思い起こせば、設計耐震偽造から始まり、食品消費期限偽造、免震ゴム偽造、杭打ちテーター偽造、排ガス燃費偽造そして今年、豊洲市場予定地の有害物質対策の埋め土問題など、とても中国毒ギョーザを声高に非難できません。問題は、それが市井の中小企業者でなく、一流と言われる企業や都の担当者によって行われていることです。根に、「計画期間に間に合わせる」があるように思います。期限に間に合わせるためなので、それほどの罪悪感をもたないで、行ってしまう。然し、時は金なりならば、金の為なのであるが！ネバーエンディングストーリーで著名になったミヒャエル・エンデの童話「モモ」…「時間貯蓄銀行」と称する灰色の男たちによって人々から時間が盗まれている、皆の心から余裕が消えてしまう。しかし貧しくとも友人の話に耳を傾け、その人自身をとりもどさせてくれる不思議な力を持つ少女モモが、冒険のなかで奪われた時間を取り戻すというストーリーを思い出しました。

さて、そういう意味でまだまだ先と思っていまして100周年記念行事も準備期間が無くなつて参りました。記念式典後に、同窓会記念祝賀会を実施しますが、具体的な日時場所は学校の決定をまつてとなります。記念誌の発行は、記念式典等の内容を入れて翌年の発行となりますが、記念事業は他高校例を検討しており『記念碑の建立』の具体的な提案もありますが、学生を含んで学校ファーストで決定していく必要があります。今年度はまず、諸処のご案内を差し上げる基本となる住所等の把握のための、船橋高校同窓会名簿発行に向けて、住所地他の確認を幹事の皆様にお願ひしたところで、名簿掲載は本人の意向を確認しますので、個人的に不明者とされている方の住所を把握している方、不明者とされている方は、同窓会まで一報下されれば幸いです。



未来への礎

校長 百瀬明宏

100周年記念事業への第一歩として、皆様のご協力を頂き、新時代にふさわしい同窓会として、100周年を迎える記念事業が出来ればと存じます。よろしくお願ひします。

同窓生の皆様には、日頃から本校の教育活動に多大なる御支援を賜り、誠にありがとうございます。本校校長として、今年四月に着任し、本校のこれまで培ってきた伝統と、三万人を超える多くの卒業生の皆様とその実績に、職責の重さを痛感しております。

着任早々に本校「七十年史」を読み、創立の経緯から戦前戦中の本校の姿、また戦後の動乱の中から現在の学校の姿が形成されるまでの歴史と、その中で学ばれた同窓の御苦労、中でも勉強に部活動に厳しい環境下で励まれた姿は、今在籍する生徒職員にとっても大いに学ぶべきと強く感じております。

「七十年史」の構成は、創立から一九七〇年代初めまでとそれ以降と大きく二部構成となっております。おりましたが、特に八十年代以降の記述が自分の教員生活と重ね合わせられ、現在の本校のスタイルが固まった時期と思われ、(「七十年史」では「安定期」と記載されています)。

この「七十年史」が刊行されて以降本校は、第二の発展期を迎えたのではないかと感じます。千葉県教育委員会から進学指導重点校としての指定を受け、進学実績も飛躍的に伸び、国からはSSHの指定を受け、理数教育の充実、特に探究活動に力を入れた取組が理数科ばかりではなく普通科にも拡大し、次期学習指導要領を先取りした取組として内外からも高い評価を得ています。

一方、定時制においては、全国的に従前の働きながら学ぶ課程という位置付けから、中学校まで不登校だった生徒や他校を中途退学した生徒の学びなおし現場であり、日本語を母語としない生徒や様々な特性を持った生徒の学ぶ場へと変わってきました。本校も例外ではなく、多様な生徒が互いを認め合いながら、卒業に向



ご挨拶

副校長 和田哲也

4月に副校長として赴任してまいりました。よろしくお願ひいたします。

閑静な住宅街のなかの文教地区にたたずむ環境は生徒たちの学習にとても素晴らしい立地条件です。実は教員に初めとなった34年前に東船橋駅前に降り立ったことを思い出しました。当時は周辺に何もなくて記憶が間違っていないければ駅から校舎が見えたように覚えております。当時からは今でも引き継がれています。まもなく100周年を迎えようという船橋高校は同窓生の皆様の力があってこそなのだ、現在ひしひしと感じています。

このたびは定時制に赴任して、定時制の生徒たちが、勉強だけでなく部活動や行事に頑張っている姿に感動しております。定時制の日々の限られた時間のなかで活動することは大変です。それにも関わらず今年度3つの部活動が全国大会に出場しました。私も思わず応援に行っていました。生徒の頑張りを認めることは教師冥利に尽きます。これも同窓生の先輩から後輩へ繋げてきたものだと思っております。定時制の昭和18年の夜間部(2部)設置から73年たつという歴史をしみじみ



着任のご挨拶

教頭 佐藤理史

本年四月に教頭として着任しました佐藤と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

同窓会の皆様には、日頃から本校教育活動に多大なるご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

私も三十年以上に船橋高校を卒業した同窓生の一人です。かつて仲間とともに歌った校歌を歌える喜びとともに、様々な面で多くの注目を集め実績をあげている母校での勤務ということで、赴任以来その責任の重さを感じております。

本校は、平成二十六年から二期目のSSH事業の指定を受け、普段の授業と課外活動プログラムによって生徒の探究心と探究力を育てています。また、進学指導重点校の指定も受けており、先生方は充実した授業のみならず、生徒の学習を厚くサポートして下さっています。

生徒は意欲的に学習に取り組み、部活動や学校行事にも積極的に参加し、充実した高校生生活を送っています。まさに船橋高校の伝統である文武両道を実践しています。これからも、生徒のために精一杯教育活動に取り組みしていく所存ですので、同窓会の皆様からの一層のご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

と味わわせていただいています。

また、定時制の副校長として、夜間の校舎の施設確認が重要な仕事です。時間をかけて教室・南館・新館と見回ります。教室では全日制の生徒と定時制の生徒が同じ教室を大切に共有しながら使用している姿が誰もいない教室から感じられます。そして私の毎日の密かな楽しみとして、南館の屋上からの夜景の美しさを独占できます。おそろしく同窓生(職員も含めて)の多くの方はご存じないと思います。このように周りの環境が変化していても、これからは船橋高校は同窓生の皆様から未来の船橋高校生へと魂の伝承が連綿と続いていくことでしょう。そのなかの現在の生徒たちの力添えができるように教職員とともに励んでまいります。今後とも同窓生の皆様の御支援・御協力をよろしくお願ひいたします。

平成29年

『春の同窓会』ご案内

実行委員長

森 和俊 (昭和50年生)

毎年開催されている『春の同窓会』、平成二十九年も例年同様二月十一日(土)の建国記念の日開催されます。今回は私たち昭和五十一年の卒業生が幹事学年を務めます。

同窓会としては過去に二回(平成十二年と二十年)、それぞれ二百人規模で開催しており今回も事前調査では百五十人ほどの同期が集まる予定です。年々参加者が増えている『春の同窓会』ですが今年全体で四百人に迫るのではないかと期待しております。かくも盛大な会に成長できたのも、ひとえに皆さんの母校への思いの表れかと存じます。

高校時代の三年間は楽しい思い出、苦しい思い出、悲しみ、はたまた甘酸っぱい思い出にあふれています。これらの思い出はその時代に一緒だった仲間としか共有できません。どうか『春の同窓会』では楽しいひと時をお過ごしください。

個人的に思い出す高校三年間はロクに勉強をしないで部活動中心の生活をしてきたことです。所属していた視聴覚委員会放送部は楽しいワンダーランドでした。裏方として学校行事の多くに関わり結構忙しい日々を過ごしたため、その結果勉強が後回し(言訳)になっていました。

一方で文科系クラブはもとより体育会系のクラブの人たちともクラスを超えたお付き合いができたことは大きな財産になっています。

さて今回の『春の同窓会』も開催場所は地元を優先し「船橋グランドホテル」となります。会場設営にはひと工夫しながら幹事一同準備を進めてお楽しみます。同窓会での語らいをどうぞお楽しみください。

船高の歴史(二)

一九五〇～六〇年代の船高

小川 信雄 (元千葉県立千葉高校 教諭、一九六三年卒)

新制高校としての県立船橋高等学校は一九四八年に発足し、新制高校三年課程が未履修になる学生に対する併設中学校も設置され、旧制の県立船橋中学校は新制高校へ昇格することになった。その後、船橋高校が自他ともに、いわゆる進学高校となっていくが、その転換期はいつ頃のことであったのかを調べてみたい。私見ではあるが、船橋高校が「進学」高校となったのは一九六〇年代の半ば、別に「団塊の世代」(第二次世界大戦、アジア・太平洋戦争直後の一九四七～四九年に生まれた、文化的・思想的な面で共通している世代)が入学した頃とその前後の時代と思われる。

一九五〇(昭和二五)年一月、職員会議で学校長は船高の評価をつぎのようになっている。最近、高校志望者中、船高を勉学の雰囲気(に)欠くとの理由にて忌避(し)都立(高校)志望者多きやの傾向ありと仄聞す。内容的に各位の指導協力を望む。結局は船高に入ったために(学力が)よくなったという実績をあげること。

当時、千葉県は新制高校の充実を図るために、六十数校を四十四校とする高校統合問題が検討されていたが、校長は「船高については習志野農高と船高に合併、夜間(定時)課程八十名(生徒)総員千二百名の大(規模)校になる予定」であると報告している。

旧制の船橋中学(私立)、市立船橋中学、県立船橋中学時代は生徒数は少なく、また進学実績も高くはなかった。その理由のひとつに、船橋地域から通学可能な千葉市には伝統をもった県立千葉高校があり、東京都江東区には同様に伝統をもつ都立両国高校が存在していたことである。学区制などが緩やかな時代であり、家計に余裕があり、大学進学希望などが強ければ、船橋高校は進学希望の上位にはならなかった。

この理由に関係すると思われる事情がある。船橋市本町の商店主の師弟には昭和三〇年代までは、県立千葉高校はレベルが高く、県立船橋高校がそれほど低いという意識があったように思われる。ここで東京都内の私立高校が小学校から中学校の時期に師弟を東京都内に「寄留」させて、都立高校に進学させるということがおこなわれていた。

私が勤務していた県立木更津高校では地域から県立千葉高校へ進学する者もいなくはなかったが、基本的に学区内地域からの進学者であった。そのためからか、卒業生も地域も多く、地域社会との関係は濃かった。船橋地域は千葉市と東京都内とも近い

め、地域との関係性はやや薄いと思われる。それが現在のように県内有数の「進学」高校となると入学は難しくなっており、地域との関係性はますます薄くなっていると思われる。

教職員は生徒の学力を向上させる努力はどうだったのだろうか。一九五二(昭和二七)年六月には模擬進学適性検査がおこなわれたが、この学力検査の優秀者の各学年一～三位を表彰している。当時も三学期制であり、各学期末の職員会議などにおける学力問題の議論をみると、七月の会議では生徒の学力、特にその弱点、原因および処置について、一年生担任から、国語は、中学時代の文法、古典になれぬ為、文法に重点をおく。国語科教師からは「一年は例年よりおこなう。理科教師からは「課外で勉強をおこなう。容案がきたら、非論理的、表現が拙い、計算力が落ちていく。対策は、家で充分やる、個別指導をする」と報告されている。

英語は当時の中学校教育課程では選択制になっていたために、中学レベルの英語教育をうけていない生徒も存在している問題があったが、生徒自身の努力やクラス担任の援助などで克服していったようである。英語科教師からは「(授業は)優秀にわたった方がよい。基礎が不十分(単語力がない)、態度ができていない(例えは暗記など)こと(つや)と報告された。

全体として、成績不振者に対する意見では、一年 劣組は1などは単位はこのままゆけば認められぬ。二年 劣組にいる優れた者はどうするか疑問、劣組の或る者は組になって反抗する。三年 出来ない者はあきらめた者が多い。劣組のすぐれた者は伸ばしてやりたい。成績向上への対策は補習授業と家庭教師とある。さまざまな理由によって成績不振となる生徒はどのように優れた学力を持つている高等学校にも存在する。しかし生徒の学力向上に対する特別に熱心な議論がおこなわれたとも見えない。ただし、数学科の非論理的、表現が拙い、計算力がおちているという指摘は、当時の生徒の学力の欠陥がおりてきていると指摘されている。同年一月の職員会議では教員側の欠陥も指摘されている。来年度学習指導計画のために参考にされたいとして問題点が指摘されている。それを踏まえておこなう。

「一、勉強について実績あげられる様に努力したい、授業は厳格にやっ欲しい、尚、休講する時には最低三十五時間補講をしていただきたい。三年生 一〇・五〇時限行ってほしい、教育課程を単純に、

移動教室を固定教室にしたい。
二、環境を良くする為に壁の面に努力して欲しい。
三、生徒の実力をテストして認め(認識して)設備すべきものを設備し、進路指導をしてやり壁もやっ欲しい」

ここで指摘されていることは授業をきちんとやること、必要な設備を整える、壁とあるのは学力向上のために生活態度をしつかりさせる、ということである。私は県立船橋高校の教諭として六高校に勤務したが、そのなかで、教員の授業における休講は一切なくしていたのは県立千葉高校だけであった。教員の急な病気を別にし出張の場合、その授業は授業の入れ替えをおこなった。私は千葉高校に在勤四年間で一授業時間も休講しなかった。これは学校・教員のプライドの表現であろう。

ある意味で生徒と教員は相関関係にある。教員が努力すれば、生徒もまた向上への意欲が増す。教員も自覚を持って授業研究をおこない、教養を高める必要がある。教育の場で知的能力や批判的精神の欠けることほど始末の悪いものはない。当時の船高の教員のレベルはどの程度だったのか。一九六〇年前後、新制高校の草創期から十数年たった一九六〇年前後になると学力向上への努力は徐々に積み重ねられていったようである。

一九五三年四月の新生入生全員には入学前の三月に英語の試験をおこなっているが、六〇年三月末に四月の入学予定者全員に「新入生実態分析」と称する五教科「実力試験」をおこなった。この試験成績によつて一年生のクラス編成をおこない、クラスは「優秀なクラスを作った」と思われる。さらに二年進級時には国立大学への進学希望(特に理系)という枠によつて三クラスを編成し、三年進級時にはクラス替えをおこなった。他の五クラスは「三年進級時にクラス替えをおこなった。これは進学・就職を考慮したクラス編成であった。

また当時、学力向上、学校運営改善のために県内の、いわゆる「伝説校」への「他校視察」をおこなっている。それは県内の東葛藤「現在は千葉高校(当時は千葉一高(以下、校名に一高がつく)、佐倉一高、長生一高、安房一高の八校であった。東葛藤高校の視察ではサライマンの子弟が多く、学力向上に学校の方針をおいている。クラス編成は能力別、英数等一時間間の増加時間を設けている。(定期試験)は四〇点以下は不合格となり、三年生の実力試験は年間五千二年生は四回など報告されている。

千葉高校では、コース別クラス編成はせず、「外部」(町支社など)模試はやらせている。生活指導等についてはほとんどクラス担任にまかしている。教職員の校内の分掌の決め方は各教科を代表する委員会運営されているなど報告されている。これらのルールはほぼ現千葉高校まで受け継がれている。リベラルなルールと雰囲気は教育には必要不可欠なものである。
(本稿の記述は「千葉県立船橋高等学校七〇年史」編纂の際に収集した資料による。)



根本 慎太郎
(昭和58年卒業)

根本慎太郎略歴

平成元年新潟大学医学部医学科を卒業後、東京-富山-高崎-長野-浜松-Charleston-Houston-Melbourne-京都-Kuala Lumpur-天理で心臓血管外科のトレーニングと研究を重ね、2006年から高槻(大阪)に落ち着く。現職は大阪医科大学胸部外科教授、同付属病院小児心臓血管外科診療科長を兼務。京都在住、医学博士。

3年B組の佐藤理史が野球部3番ショートストップ、そして私が応援委員会委員長(応援団長)としてベスト8進出を掛け東海大学浦安高校と戦った。9回が終わるも天台球場に母校の校歌が響くことはなかった。相手は夏の甲子園代表となった。血まみれの掌に撥を巻きつけて太鼓を叩く斉田、口角が裂けてもトランペットを吹き続ける高橋(克)、マウンドに立ち続ける風間・・・。流石に校歌にも謳われる船高気質、悔しさに涙はしたが勉強も頑張って皆志望校へ進んで行った。

今年文武両道の佐藤君が教頭として母校に戻り、30年以上も船高から遠ざかっていた私に「わが同窓」の寄稿のお声を掛けて下さった。昨年大ヒットした小説『下町ロケット2』の巻末と東芝日曜劇場テレビ番組テロップで私の名が登場し、「もしや」と思ったのであれば、彼の素晴らしい嗅覚と記憶を前に逃げる術がありません。お互いセンター競馬場駅から通っていたと記憶しています。

現在私は大阪の地で新生児から思春期の子供たちの先天性心疾患の手術治療を専門とし、医学生・若手医師の教育を担当しています。医師となつてからの四半世紀でこの領域での手術成績は飛躍的に良好となりまして、いまだに解決しなければならぬ問題

が山積しています。その一つが心臓修復時に埋植する「人工手術材料」です。既製の材料は経年劣化による硬化や萎縮を起こし、体の成長に合わせたサイズアップもありません。このため5〜10年後に血液循環に問題を来し再手術で交換せざるを得ない場合が少なくありません。この解決のため「生体内で吸収されない自己組織で置き換えられて成長を妨げない手術材料」の開発研究に着手しました。特殊3Dデザインを駆使した材料の基盤作成を福井経編(タテアミ)興業(株)が、各種試験実施・許認可申請・上市化を帝人(株)が、そして大阪医科大学が生体内評価と臨床治験を担当し、「ガチ」のチームワークを進めています。AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)の支援と、PMDA(独立行政法人医薬品医療機器総合機構)の指導を受けながら来る臨床治験に備えています。

さてなぜ直木賞作家池井戸潤氏の『下町ロケット2』を私がお手伝いすることになったのでしょうか?小説『陸王』に登場させるスニーカーアッパーについての取材のため、そのOEM生産の一大シェアを占める福井経編への池井戸氏の訪問がスタートでした。この時『下町ロケット2』で佃製作所が人工心臓開発という医療分野へ挑戦するストーリーを考えていた池井戸氏は福井で我々の

開発を知ることとなりました。昨年6月に福井での初対面ですっかり意気投合、7月には大阪へ心臓手術見学にお招きしました。その夜池井戸氏を囲んで我々開発チーム3者、新聞社、そして出版社でお好み焼き大会となりました。満腹となったところで「もう書けた」と池井戸氏は満面笑みで二次会へ向かう我々を残しホテルへと帰ってしまいました。医学論文一つ書くのに苦労している私は、売れっ子作家の凄さに打ちのめされました。息をする間もなく、小説と新聞ドラマがシンクロする”とのことでTBS東芝日曜劇場ドラマ首脳陣も手術見学に来られました。驚いたことに8月には副題「ガウディ計画」が付けれられ分厚い『下町ロケット2』原稿が医療チエックのため大阪に送られて来ました。福井が桜田経編、帝人が帝国重工医療機器開発部、そして大阪医大が北陸医大として登場し、「ジーン」と来るストーリー」が多々の方々に訴えるものと確信しました。9月は今田耕司さんの手術見学、池井戸氏と原稿最終チエック、TBSクルーとの打ち合わせ、そして脚本・台本チエックが始まりました。ドラマが放映された10〜12月は怒涛の嵐に巻き込まれた。

昼夜関係ない脚本・台本チエック依頼と演出・美術の電話打ち合わせ、毎週日曜日は朝5時にホテルから連れ出される東京&埼玉のロケ現場監修に追いまくられ、オンタイムのドラマ鑑賞は叶いませんでした。番組プロデューサー、監督、寝不足の若いAD、撮影スタッフ、



ドラマ『下町ロケット』手術室ロケにて



昭和58年度船高応援団(卒業写真より)

こだわりの美術の皆さんと苦楽を共にしながら世に問う作業はとて楽しいひと時でした。加えて阿部 寛さんをはじめ「オーラが強い」多くの俳優さんと医療指導を通じてチャットさせて戴いたことも忘れられませぬ(年甲斐もなくミィハーですが)。12月20日日曜日に全出演俳優と番組制作スタッフ、各界の著名人、そして池井戸氏が一堂に揃う圧巻のドラマ最終話鑑賞打ち上げパーティーにご招待頂き、一気に駆け抜けた『下町ロケット2』が終わりました。翌朝6時東京発「のぞみ1号」で帰阪&手術執刀し竜宮城から完全に戻りました。NHKであればギョアラが後程支払われるようですが、TBSからは番組DVDが送られてきただけでした。今も池井戸氏とTBS福澤監督との交流は続いています。

さてドラマに先行されてしまった新規医療材料開発に負けるなどリアル「ガウディ計画」の実現のため今まで以上にチーム全員で燃えています。2020年の東京オリンピック開催のころに大きな発表が出来ることを祈っています。関西に飛んで行った端くれ船高OBをどうぞよろしく願っています。



右端のネクタイ姿の方が執筆者大山先生



恩師探訪

「物理実験と船高校歌」

千葉県立長生高等学校
大山光晴 先生

私が船橋高校に在籍していた平成元年からの11年間の最初のころは、たちばな祭の後夜祭で墨汁をかけあう風習がまだ残り、教室の前扉から教員が入ってみたら中の生徒が全部椅子机ごと後ろを向いて座っていたり、冬の放課後に有志が教室のストープで鍋を作っていたり、懐かしむわけではないが良き時代であった。私自身教員として自慢できることは今もって何も無いが、船高で出会った生徒達は私の宝物である。

まあ全国の何処を探しても、物理実験の最後に校歌を歌う生徒はいないだろう。一度目は新宿の高層ビル群の真つただ中で、二度目はNHKの番組の中で・・・。

昔船高の研究紀要にも書かせていただいたことがあるが、船高で生徒が作った人が乗ることのできるリニアモーターカーは、本当に船高生の知恵とエネルギーの塊であった。全国でおこなわれる科学実験のイベントに参加をして、JRの山梨実験線ができるずっと以前に、数年間の活動期間中に20,326人の子どもたちを乗せて走る、という実績を残すことができた。この活動で私が一番困ったのは、行く先々で「先生のご指導が・・・」と声をかけられたことである。その度に気恥ずかしくて穴を掘って逃げ込みたい思いをしたが、「何処の大学の研究室ですか？」を聞かれた時は自慢げに、活動しているのは高校生達であることを伝えた。船高リニアは車体やレール、電気回路や走行プログラム等の設計・製作はすべて生徒が行っており、私も製作会議の場で自分の案を出したことはあるが、ことごとく却下されている。したがって、この活動で私がやったことは、電気回路基板のはんだ付けやレールのボルト締め、材料の買い出しくらいであり、もし自慢できることがあるとすれば、彼らのやりたいことの邪魔をしなかったことであろう。電気回路がうまく動かず、物理教室の机にあおむけに腕を組んで横たわっている生徒の姿を目にしても、ただただ見守っていた

だけである。

船高リニアの1号機は平成3年(1991年)の2月から活動を開始して半年かけて制作し、8月2日に新宿に運び込んで徹夜でセッティング作業を行った。運び込んだ時は実はまだ未完成であり、生徒達は赤外線センサー回路の完成と、浮上する車体を支えるレールの調整にたいへん苦労をしていた。船高リニアが、用意した22メートルのレールをとりあえず車体だけで走り抜くことができたのは翌朝8時過ぎであった。そして、すべての製作の目標を達成して、イベントに会場したお客さんの前で、このプロジェクトの代表生徒を乗せて走行に成功したのは当日の昼過ぎであった。

この発表終了後に、前述したとおり船高校歌の大合唱になるのであるが、生徒の中にいた記録係がこの徹夜の作業をビデオ撮影していて、上記の細かい記録は私の記憶ではなく映像として今も私のノートパソコンの中に残っている。ただ、残念なことに彼らが歌っている映像は無い。まあ、撮影者も一緒に歌っていたのだから、これだけは、私の記憶の中だけにある。

二度目の校歌はNHKの夏休みの理科実験の特別番組の中で流れた。この番組の企画は3つの実験の課題に、それぞれ異なる学校の生徒が取り組むようすを紹介するものであり、船橋高校に与えられたテーマは、太陽の光を利用しておこなう光通信であった。できるだけ遠距離の光通信をおこないたいということで、船高生達は工事現場で使われるオレンジ色の大型の三角コーンをメガホンにして、広い出口に部分に光を良く反射するCD板を貼った。これで太陽光を反射させながら、コーンの中に声や音楽を入れると、出口

のCD板が振動して反射した太陽光も振動する。この振動している太陽光を、離れた場所に置いた太陽電池で受け止める。すると、光の振動が太陽電池が発電する電圧の振動になるので、声や音を再生できるという仕組みである。この実験を、最終的に埼玉県三郷市付近の江戸川の両岸でおこない、通信に成功したのである。このとき、実験に見事成功した船高生達が、江戸川をまたいで送った音楽が船橋高校の校歌であった。

最近、新しい教育の流れの中でアクティブラーニングとか、学んだことの活用、主体的な学び、対話的な学び、深い学びという言葉が盛んに使われているが、当時の彼らの活動を思い出すと「何を今頃言っているんだ。」と、一人秘かにつぶやくことが多い。文部科学省や教育委員会が新しい教育観や新たな教育手法で生徒を育てようと言いつつ何十年も前に、船橋高校の生徒達はその学びを実践していたし、そもそも、船橋高校の生徒は自分達で成長する能力とエネルギーを持っていた。

私が彼らから学んだことは、教員の仕事は生徒の能力が存分に発揮できるように環境を整えてやること、はんだ付けなど可能な支援をすること、そして彼らの成長の邪魔をしないことである。



事業報告2016

報告とお知らせ

同窓会総会の報告

同窓会総会の報告
100周年に向け事業が始まります
総会は8月第一日曜日(本年は8月7日)、母校にて開催されました。

1 100周年事業に先行して、同窓会が把握している同窓生名簿のメンテナンスを行うこと、メンテナンス作業後に記念名簿として発刊することを確認されました。

2 90周年記念事業の一環として、母校へワゴン車を提供するため、250万円を積立していましたが、80周年記念事業で購入した車両の老朽化に伴い新車を購入しました。

同窓会役員名簿メンテナンスと記念名簿の発行

既に(10月10日現在)、学年理事の方々に各学年の名簿情報の提供をお願いしています。今後、この情報提供をお願いした方全員に名簿への情報掲載内容の確認と購入予定の有無をお伺いするご案内をお届けする予定です。

「(株)サト」が行い、名簿販売も同社が行います。名簿には、卒年、クラス、氏名、旧姓、住所、電話番号を掲載することになります。

今後の予定
平成29年2月
ご案内、住所確認等の通知カード
平成29年4月
右記通知カードにて

ご意見、参加者、学年理事募集
同窓会のホームページがリニューアルしています。まだまだ運用の初期段階という感否めませんが、母校創立100周年に向けて一層の充実を図りたいと考えています。

平成27年度決算及び平成28年度予算

1. 収入の部

Table with 4 columns: 科目, 28年度予算, 27年度予算, 27年度決算, 26年度決算. Rows include 繰越金, 一般会計, 会費, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 4 columns: 科目, 28年度予算, 27年度予算, 27年度決算, 26年度決算. Rows include 会議費, 需用費, 後援費, 雑費, 春の同窓会費, 会報及び広報費, 子備費, 繰越額, 合計.

部活動報告

将棋部

顧問 西山 和宏

船高将棋部は昭和47年(1972年)に同好会として産声をあげ、56年に部へ昇格しました。61年以降、県大会団体優勝のほとんどは本校が県千葉高であり、船高は全国大会で度々上位入賞を果たす強豪校として全国的に有名でした。

船高の影もめつかり薄くなつてしまつていた昨今でしたが、久々に千葉県総合文化祭将棋大会の女子個人で西沢さんが準優勝し、全国(広島)大会に出場することができました。



上図(▲4五歩)は西沢さんの対振飛車得意戦法(右四間飛車)

西沢さんは美術部でも活躍し、文化祭パンフや修学旅行しおりの表紙を担当するなど、とても才能豊かです。将棋部入部はやや遅く、2年生になる直前でしたが、秋の県高文連将棋大会(次点で関東大会出場)の頃より、棋けた地道な努力が結果し、棋力も飛躍的に伸びました。

西沢さん感想文

全国大会は初めてだったので、楽しみと不安の両方がありました。結果は、予選を通過することができましたが決勝トーナメントでは1回戦(ベスト16)で敗退してしまいました。当初の目標を達成



母校の現況

〔全百〕

運動系部活動の番号区分
1)27年度新人大会
2)27年度関東大会予選
3)28年度県高校総体
4)その他

○運動系部活動

野球
1)秋季県大会 二次予選敗退
2)春季県大会 2回戦敗退 ベスト32
3)選手権大会県大会 2回戦敗退
陸上競技
1)男子総合7位
男子4×100mリレー

男子100m 2位 清水
男子砲丸投 2位 横川
男子内盤投 3位 横川
男子八種 6位 坂巻
女子5000W 5位 宮間
女子1000m 6位 大沼

男子砲丸投 1位 横川
女子砲丸投 1位 清水
男子200m 1位 清水
女子200m 1位 清水

男子砲丸投 1位 横川
女子砲丸投 1位 清水
男子200m 1位 清水
女子200m 1位 清水

男子砲丸投 1位 横川
女子砲丸投 1位 清水
男子200m 1位 清水
女子200m 1位 清水

男子砲丸投 1位 横川
女子砲丸投 1位 清水
男子200m 1位 清水
女子200m 1位 清水

男子砲丸投 1位 横川
女子砲丸投 1位 清水
男子200m 1位 清水
女子200m 1位 清水

男子砲丸投 1位 横川
女子砲丸投 1位 清水
男子200m 1位 清水
女子200m 1位 清水

男子砲丸投 1位 横川
女子砲丸投 1位 清水
男子200m 1位 清水
女子200m 1位 清水

男子砲丸投 1位 横川
女子砲丸投 1位 清水
男子200m 1位 清水
女子200m 1位 清水

バスケットボール女子
1)地区予選敗退
2)県大会1回戦
3)県大会2回戦
4)県大会3回戦

男子D
女子D
男子S
女子S

ソフトテニス
1)男子団体 藤田・富田組
2)女子団体 飯田・名兒那組

男子D
女子D
男子S
女子S

文化系部活動
1)千葉県アンサンブルコンテスト
2)Ship(船)チーム
3)bridge(橋)チーム

男子D
女子D
男子S
女子S

全国高校囲碁選手権千葉県大会
男子団体 財前・花田・黒光 優勝
女子団体 財前・花田・黒光 優勝

男子D
女子D
男子S
女子S

美術
1)千葉県文化祭美術工芸作品展
2)千葉県文化祭美術工芸作品展

男子D
女子D
男子S
女子S

音楽
1)千葉県文化祭音楽コンクール
2)千葉県文化祭音楽コンクール

男子D
女子D
男子S
女子S

定時制
1)千葉県文化祭音楽コンクール
2)千葉県文化祭音楽コンクール

男子D
女子D
男子S
女子S

その他
1)千葉県文化祭美術工芸作品展
2)千葉県文化祭美術工芸作品展

男子D
女子D
男子S
女子S

おたより彼れ是れ

●須合 賢一(昭和61年卒)

娘が今度の3月で高校を卒業します。卒業前の行事が増えている中、ふと振りかえると県船を卒業し30年が経ち、同窓会だよりを読みながら、懐かしさを感じております。同窓会運営の皆様へ感謝しております。

●小井土 武(昭和28年卒)

八十路の峠に登り、下界(過去)を眺める余裕ができました。特に船校生活がよく見えます。

●野崎 良子(旧姓小島)(昭和35年卒)

いつもお世話様です。関東地方のはずれに居りますが船高の生徒さんがツイズ番組等でごんばつていると、地元(の学校)より応援してまいります。

●吉野 二三夫(昭和42年卒)

船橋高校入学生、来年4月で52年になります。年に2回、テニス部の同級生と食事会をしています。皆元気で。

●奥永 俊哉(昭和58年卒)

毎年の「恩師探訪」を楽しみにしています。今年は社会科の山本敬久先生でした。1980(昭和55)年の入学時は1年C組の担任でおられました。以来35年間すっかりご無沙汰していましたが、お元氣そうでしょうかに存じました。昨年は3年時の担任でいらした小柴真一先生の退官記念謝恩会として、約20年振りに同級生が集まり、昼から深夜まで飲み食べ語り尽くしました。僅か3年間でしたが、船高が我々の心の拠り所となつていふことを改めて感じた1年でした。同窓会事務局の方々には心より御礼申し上げます。

●林 直樹(昭和58年卒)

昨年水泳部50周年祝賀会が行われましたが、私が入学した年に水球日本一の指導実績をもつ上野正裕先生が船高に赴任され、水球が始まり

ました。後輩たちの更なる活躍を心より祈っています。

●田中 光三(昭和35年卒)

いつも同窓会だよりをお送りいただきありがとうございます。

●深沢 吉栄(昭和20年卒)

同窓会だよりに、陸軍海上特攻艇震洋とありましたが間違っています。(銚子市で、海軍海上特攻艇震洋です。海軍です。陸軍海上特攻艇、①又は②でした。小生も船橋市(海岸)千葉工作所で、特攻艇の肋骨を造りました。

●相馬 順子(旧姓原)(昭和27年卒)

毎年同窓会便り楽しみにしております。いつのまにか80代、今も趣味を楽しむことが出来、幸せに思っております。

●永原 敏博(昭和42年卒)

「同窓会だより」で、世界的バイオリニストであった江藤俊哉や潮田益子に師事し、あのストラディバリウスで演奏したという大谷宗子さんの事を知り、びっくりました。船高オケストラ部の後輩でバイオリニストとして世界で活躍している人がいるのか、と。船高オケストラ部の定期演奏会は、聴きに行っているが、大谷さんとの共演が聴けなかつたのは、残念。

●高井 康平(昭和59年卒)

同窓会だよりで水泳部の大躍進を知りOBとして鼻が高いです。

●平山 仁美(旧姓中村)(昭和47年卒)

選歴の年の同窓会がきっかけで、旧友たちの交流が再開したり、新たにつながりが増えてきました。話をしているとき、いつの間にか懐かし青春時代に立ち返っているから不思議です。折角の絆を大切に、これからの人生をさらに豊かにしていきたいものです。

●高橋 一(昭和23年卒)

戦中、戦後在籍し激動の船中を送りました。恩師も同窓もすくなくなくなりました。母校の名声がかうれしいです。

●小倉 純夫(昭和46年卒)

先日、弁護士会の懇親会で若い女性弁護士と話をしていたら、その女性は船高の後輩であることがわかりました。船高出身の弁護士も増えていくんですね。近いうちに、船高法曹会を設立できたらと思います。情報をお寄せ下さい。

●清水 玲子(昭和50年卒)

50歳になって初めて教員になり、10年が経ちました。生徒達に伝えたい事はたくさんあるのですが、現状とのギャップに無力感を感じる事もあります。船高の生徒達はいつたいうなつていっているのか、のぞいてみたいですね。

●佐藤 嘉男(昭和20年卒)

当年、87歳。社会人となって以降スポーツをこのみ現在近くのクラブへ入部硬式テニス健康維持に努めております。子孫等に恵まれその扶養は苦勞です。

●近藤 久夫(昭和29年卒)

65年も前の話です。私の1学年のときのクラス担任は、塩谷恒先生という方で、著名な漢学者塩谷温博士のご子息さんでした。そのような関係からか、或る時、博士が来校され、講演会が開かれました。貴重な講演会だった筈ですが、内容は覚えておりません。

●奥村 正明(昭和33年卒)

私は今年(平成27年)11月に船橋地名研究会の地名を歩く会に参加しました。JR南船橋駅より東船橋駅まで歴史散策し昭和放水路をたどり、船高の野球グラウンドを望み、約60年前を歩みしみ出しました。それは、早実の玉選手が練習試合に來船し校内ですれ違ったた事です。なつかしく思いました。

●安富 伸子(旧姓藤竹)(昭和34年卒)

50数年前の図書室と委員会室の風景が懐かしく思い出されます。今も元気で読書の毎日です。現役の皆さん活躍嬉しいです。

●秀平 まさ子(旧姓妹尾)(昭和43年卒)

100周年記念事業準備会がいよいよ活動開始ですね。未来につながる有益なものを遺せるよう、一人一人は微力でも一丸となって応援できればと願っています。

●頼所 和代(旧姓萩原)(昭和46年卒)

元図書委員会の仲間と年一回集まり旅行などに行っています。その折、同窓会の様子を聞いてなつかしく思っています。

●中川 康子(旧姓山田)(昭和29年卒)

昨年11月に75才以上で22本以上歯が残っているということで西東京市歯科医師会より賞状と記念品を頂きました。今年80才です。

●植松 裕子(旧姓古屋)(平成8年卒)

今のところ何もお手伝いできておりませんが、いつも母校のことを見守っています。

●戸田 祐司(昭和36年卒)

第28号でメキシコオリンピック、パレーボールで活躍した白神選手の訃報に接し驚くと同時に懐かしく想い出しました。

●昭和39年東京大会には、我が町のホープ宮野洪一君がボート日本代表で出場しています。お互いに喜寿を迎えるであろう2020年、2度目の東京で開催されるオリンピックを楽しみにしております。

●山口 勇(昭和39年卒)

現在、現役を引退して、のんびりと生活を楽しんでいます。今思えば人生は早いものです。カラオケボツクスに行っても、今でも高校三年生を歌って居ます。人生で一番楽しい時でした。

●豊田 紀子(旧姓豊田)(昭和33年卒)

運営費納入者の欄の楽しみ。まず最初に探するのは26年卒の金子一雄先輩の名前。見つけると、ひと安心。パレー部の大先輩である。あの頃は何人もの先輩方が男女の指導をして下さった。東大卒の金子先輩は近より難かったのですが卒業後は一度もお会いできないまま、懐かし

く、お元氣でいらっしやる事を確認して嬉しく思うのです。

●海保 泉(昭和43年卒)

65才になり、一応退職。講師として週5日出勤し、トランプを教えています。テニス、スキーを続けながら、指導、演奏をしています。今まで培ってきたノウハウを学生に伝えられる事に幸せを感じながら、一日一食(時に二食)を歩数5,000歩以上で楽しくやっています。

●島崎 喜一(昭和48年卒)

10月8日に第4回目となる同期会を開催しました。120名もの参加で、楽しく盛り上がり、次回からは2年ごとに同期会「やりましょう」ということになりました。またお会いしましょう。



昨年春、二十三年ぶりのクラス会が開かれた。発端は、担任の先生の退官祝いだっただ。私達の五十歳という節目も重なったためか、遠方から駆け付けた人もあり、二十名近くが旧交を温めた。毎年二月一日に行われている同窓会にもこの数年参加している。三百名もの方々が出席する中、私達はまだ若輩者で末席である。が、六十歳になったら、幹事学年として同窓会の企画・運営をしなければならぬ。

百周年に向けてのプロジェクトも始動した。まずはこの同窓会だよりや同窓会のお知らせが手元に届くよう、転居などの行方不明者になつてしまっている方々を探ることから始めている。皆様のお手元にも二月に調査カードが届くことになるので、ご返送下さい。百周年を共に祝い、同窓会での再会ができるよう尽力する所存ですので、ご協力の程、よろしくお願致します。(昭和五十八年卒)